

# 「無礼講ストリート」の提案

## 提案書

### 提案概要

地方都市における街づくりは、単に、インフラを整備するだけでは十分な効果を発揮できるものではありません。街づくりというからには、街としての賑わいが欠かせないと考えます。

今回の提案は、街の中に賑わいを設けるための仕掛けとして、かつて実施された「歩行者天国」を参考とし、ショッピング等の消費活動による賑わいではなく、人と人とのふれあいを自由にする事でコミュニケーションを楽しむことを効果として狙うものです。

提案の骨格は、特定の街並みを休日等の非日常的な時間帯を区切って「無礼講ストリート」として命名し、そこに訪れる人に与えられるマナーを、「その空間にいる誰にでも気軽に話し掛けてよい」というただ一つのマナー（ルール）で楽しもうとするものです。

具体的には、*商店街等の賑わいの核となる空間を提供する店主や従業員の方々にもてなしの心をもってもらうこと、地元NPOや、元気のいい市民(もちろん行政も)に協力してもらい、語りかけ仕掛け人を演じてもらうこと、マスコミ等で、楽しげな街づくりをPRしてもらおうこと*の3つのソフト提案からなっています。

平成18年10月10日

## 1. 提案にいたった思い

### 1-1. 無礼講ストリート その目的と主旨

人間は、お互いにコミュニケーションを言葉で交わし、ここまで発達・発展してきたと考えます。

社会が成熟するにしたがい、社会が固定化されてきつつありますが、その傾向は、都市部でも地方都市でも、あるいは農村部にも見られるのではないのでしょうか。大都市は、多くの人々が動くパワーそのもので活力が生まれ元気ですが、一方の地方都市では、中心市街地もシャッター街といわれるように、人の動きもまばらで、活力はきわめて減退してきています。

そこで、特に、地方都市において元気を取り戻すためのアイデアとして提案するのが「無礼講ストリート」の提案です。これは、従来進められてきたハードな整備と異なり、ソフトな提案です。

人は、基本的に話し好きです。しかし、最近の社会風潮もあり、見知らぬ人との交流はきわめて危険だという風潮を醸し出しています。ここでは、本来の話し好きな人々が、特定の空間の、特定の時間帯に、「無礼講ストリート」と称して、気ままに話し掛けることができる仕組みを作ることで、街の賑わいを取り戻すとともに、人と人の交流を自由な雰囲気の中で提供できる場を提供することで、一人一人の人々にいろいろなひとと会話を楽しむという幸福感を提供することを目的とするものです。

人と人の自由な交流の際に配慮する点は、安全性・安心感の確保と思い出づくりの2点です。

#### 商店街等の賑わいの核となる空間を提供する店主や従業員の方々にもてなしの心をもってもらう

賑わうことを求めるグループが核となる必要があります。ここでいうグループとは、商店街の店主や従業員の人々のことです。賑わいを求めるといろいろなわずらわしさもセットで飛んできます。それを承知で、その商店街を訪れる人々に対し、いつでも「もてなしの心」をもってもらうことが必要です。どのようにもてなすか。この「無礼講ストリート」の仕掛け人であるいる人々の知恵にかかってくる。

#### 地元NPOや、元気の良い市民(もちろん行政も)に協力

店主等を支援する人々として、NPO や元気の良い市民の人々の協力を得ます。彼らには、「無礼講ストリート」の案内役として、ここを訪れる人々に、気楽に話を書けることの面白さ・楽しさを伝えます。また、逆に、ルールやマナーを守らない人に対する警告役もになってもらいます。また、おまわりさん(警官でなく)の協力を得ることも必要でしょうし、行政の方々も、市民と振り合える場として、積極的な支援をお願いすることも可能でしょう

#### マスコミ等で、楽しい街づくりをPR

マスコミの宣伝力を活用し、周辺の住民に方だけでなく、遠方からの来訪者にもきてもらうためのPRを行うことが望まれます。ともかく、「お話しましょ」というだけで、特に祭りやイベントを開くわけでもありません。話す楽しさだけを力に集客しようというアイデアです。\*ちなみに、お祭りやイベントに引っ掛けてこの企画をおこなうことも当然考えられます。

#### 主役は、おしゃべり好きな皆さん

「無礼講ストリート」の主役は、当然、そこに訪れた人々です。見知らぬ人と会話をして記念写真(プリクラ写真?)をとる、あるいは、そこからメル友としての交流が始まる等、交流の輪が期待されます。当然、商店街と訪れた人との交流もあるでしょう。

## 1 - 2 . 『無礼講ストリート』の期待する効果

『無礼講ストリート』に対する期待される効果としては、次のものがあげられます。

### *人々のふれあいを通しての暖かい賑わいが生まれる*

賑わいのある街づくり、地域活性化等いわれますが、ただ単に観光客がお金を落としただけの地域活性化は不幸であると思います。人々との交流を通し、いい思い出を作り上げることができる商店街であること、これが、これから求められる質の高い地域活性化策であると考えます。

### *地域の活力をもたらすアイデアが自己組織的に生まれる*

人々が、ただおしゃべりをするだけでも楽しいですが、なにか、共通の趣味や目的をもって集まり始めると、そこには、自己組織的(自動的?)に新たな活動が生まれます。その中には、街づくりの活動も含まれるでしょうし、新しい産業となるものも含まれるかもしれません。そのような夢も与えてくれます。

### *日ごろ仕事や学業でストレスを感じている人がおおらかになる街がうまれる*

昭和30年代を描いた邦画「夕日の3丁目」がヒットしました。あのころの向う三軒両隣の近所づきあいからうまれるいろいろなペース。私たちが、今、求めても求められないなにげない付き合いが生まれることで、人間おおらかになるのではないのでしょうか。単に、活力だけでない、癒しの空間としても効果があると考えます。

## 1 - 3 . 具体的な活動の切り口について(市民との協働作業、ワークショップづくり)

『無礼講ストリート』づくりに欠かせないのが、地域の人々と NPO、商店主、行政マン等による協働体制の確保です。楽しく、面白がって企画するパワーがあれば、特に、資金も特別な資源もなくとも可能なこの企画。ともかく、人間の輪の持つパワーだけをたよりに地域活性化を図ろうという企画です。「愛」は概念でなくパワーだといった人がいましたが、まさしく、地域活性化は、概念でなく、人のパワーで創り出すものです。

この仕掛けを生み出すためにも、いろいろな約束事を定めたり、役割分担を図る必要があります。主旨を理解してもらうことも必要です。

河川環境整備事業(河川公園等の整備)等においては、これまで数多くの地域住民とのワークショップ方式による取り組みがなされていますが、『無礼講ストリート』づくりのためには、河川環境整備のよな具体的な事業も何もありません。しかし、商店街の商店主への理解協力に加え、地域住民、行政職員、地場企業のボランティア活動、あるいは小学校等の学校や高齢者への呼びかけも望ましいと思われます。

地域と一体になって、『無礼講ストリート』づくりを模索すること、この行為そのものが地域づくりの原動力にもなるものと期待されます。

## 1 - 4 . 『無礼講ストリート』づくりのための技術的な研究

単に、人々が話すようになるというものでもありません。おそらく、いろいろな仕掛けが必要になるでしょう。そのような仕掛けや組織づくりのノウハウを蓄積することも大きな財産となると思われます。おそらく、成功する街が出てくれば、街づくりや地域活性化の研究材料ともなるでしょう。

## 2. 『無礼講ストリート』づくりの段階的提案

### 実施の流れと工程計画

『無礼講ストリート』づくりのステップとして、次のような段階を経て実施することを提案します。

**第1ステップ:** 地域づくりの核となる人がいる街の探索  
(地域の人とともに地域の環境を把握し、「無礼講ストリート」候補地を探す)

**第2ステップ:** 「無礼講ストリート」のイメージ作成  
(どのようなルールが必要か、どのような期待がもてるか等協議する)

**第3ステップ:** 「無礼講ストリート」づくりのための技術的手法の研究  
(技術的手法(安全面、円滑なコミュニケーション等)を考える)

**第4ステップ:** 「無礼講ストリート」の実践とモニタリング  
(「無礼講ストリート」を実践し、そのバージョンアップのための課題抽出)

**第5ステップ:** 「無礼講ストリート」を展開する  
(街づくりから、いろいろな展開を「無礼講列車」「無礼講パーティ」…)

### 提案イメージ

提案する『無礼講ストリート』のイメージは、次のようなものです。



HPからの転用のため、ぼかしてあります。

(イメージだけ参考ください)